

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第１回山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会
開催日時	平成２８年１２月２６日（月曜日）１０：３０～１２：００
開催場所	セントコア山口　２階サファイア
公開・部分公開の区分	公開
出席者	河野康志委員　ほか１２名
欠席者	下井洋美委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	１　開会 ２　あいさつ ３　委嘱状交付 ４　委員紹介等 ５　会長・副会長選任 ６　連携中枢都市圏構想、都市圏ビジョンの策定について ７　意見交換 ８　今後の日程 ９　閉会
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 １　開会 ２　あいさつ（山口県央連携都市圏域推進協議会会長　山口市長） ３　委嘱状交付 ４　委員紹介等 ５　会長・副会長選任 会長：河野康志委員、副会長：安部研一委員 ６　連携中枢都市圏構想、都市圏ビジョンの策定について（山口市事務局説明） ７　意見交換 【会長】 今から意見交換に移りたいと思います。活発な御意見をお願いします。御意見のある方は、挙手をお願いします。 【委員Ａ】 ビジョン素案３３ページの広域観光連携のところです。津和野町さんも来ていらっしゃいますが、萩・津和野線は、観光路線であり、生活路線でもあるということで、もう少し機能強化して、広域交通ネットワークを広げていただきたい。ほとんど網羅されておりますので良いのですが、圏域内の食については、山陰側、日本海側の食も色々ございますので、少し力を入れていただきたいということが一つあります。それから、圏域外になりますが、圏域内の空の玄関機能は山口宇部空港がありますが、萩石見空港もありますので、こちらも少し何とか検討をしていただきたい。それから歴史ですが、萩往還は当然入っていますが、赤間関街

道とか、そういった歴史街道を活かした連携・取組もぜひ入れていただきたいと思っています。以上です。

【会長】

萩と津和野は、観光が非常に活発化しておりますので、そういった点もしっかり含まれていければと思います。

【委員B】

1871年の廃藩置県以来、ようやく長州の方々と席を一緒にすることが出来たというのを大変喜んでおります。廃藩置県以前は、津和野は山口との交流が大変盛んなところでありましたので、色んな意味で山口に目が向いているわけでございます。今回、こういう形で行政の中で観光ということで特化でございますが、入れていただいたことを大変喜んでおります。

先般、津和野町は日本遺産の認定を受けたわけですが、その選定委員の中で元ゴールドマン・サックスの役員をされ、今、小西美術工藝社という国宝などを修復される会社の社長をされております、イギリス人のデービッド・アトキンソンさんという方が、新観光立国論、国宝消滅、そういう本を書いているらしいんですが、その本の中に、日本の観光対策に対する進言を書いているらしいということで、少し勉強してきましたので参考になればと思っています。

まず外国人が日本に来たときに、一番の問題は、説明不足という指摘をされておりました。案内板やガイドが少ないということですね。それと日本の行政の施策として、器については随分補助金を出しますが、人間文化の再現ということが全くされていないということでした。つまり、家具や什器、備品等の備えがしてない空っぽな空間だけの建物ばかりが残っていると。そういうものに対して外国人は全く魅力を感じないという指摘がされております。まず端的な例を言うと、最近の家の中では、畳がない。床の間がない。だから掛け軸なんかも当然ない。そういうものに、外国人を一所懸命インバウンドで呼ぼうとしても、それは魅力がないものですよっていうふうなことが本の中に書いてありまして、こういうことはやはり大切なことだと思っています。

それと、皆さん方もご承知と思いますが、先般新聞に国土交通省がLCCの空港の対策ということで、国際線誘致に積極的な空港に対しては、補助していくという事が書いてありました。まさに宇部空港なんかはそういうところで最たるものだと思いますが、その中で岡山空港が台北と結びまして、楽天トラベルのサイトの中でも全国で第2番目になったと書いてあります。せっかくですから宇部空港をもっと活用するということもあるし、JRのデスティネーションキャンペーンなども活用した、圏域で周遊できるようなことをしていくということが、まず求められているのではないかと思います。

【会長】

萩も津和野も古い建物とそれにまつわる色んなものが残っていますので、大きな魅力であろうと思いますから、ぜひ発信できればと思います。

【委員C】

この連携をやる目的の一番手は、やはり人口を減らさない。そこで、色々データも出ているわけですが、男女別というのがないですね。若い女性がいなくなるというのが一番の問題ではないかと。若い女性がいなければ、出産ということが起こらないということになります。そして、自然減はありますが、自然増が非常に減ってしまう。こういうような問題がありますから、若い女性が外に出てしまうのはなぜなのか。何が問題なのかを深掘りしていったほうが、こういう会議体ではやりやすいと思います。

それから定住人口と交流人口、交流人口が増えれば定住人口が増えるという期待感はあるんですけど、これはそれぞれ別々に取り込んだほうが良いのではないかと考えております。

それから6ページの下に「市町人口ビジョンによる圏域の将来人口の展望」というのがありますが、この中で美祢市は人口が増えることになっています。美祢市のやっておられることを有効展開すれば増えるのか分かりませんが、ぜひ教えていただきたいと思います。

それから、職業、職場の問題も非常に大事ですが、20年から25年後、ちょうど2040年頃、今ある職種の40%くらいがなくなると言われており、AIとか、ロボット化とか、色んな問題があります。その辺も含めて検討していかなければ、目標は目標という話になるのではないかと考えております。消防、警察、水道・災害などについては、すぐに一緒にやれると思いますが、人口の問題は、なかなかそうはいかない。

それから、この圏域だけ良ければいいのか。2県にまたがっているようなプロジェクトもあったと思いますが、その辺は、県として考えるのか、国として考えるのか。そういうふうな検討に深めていくと良いのではないかという気がします。以上です。

【会長】

複数の質問をいただきましたが、事務局のほうでいくつか答えられることがありますか。

【事務局】

ご質問にありました将来人口の数字ですが、美祢市が3万人に増加しているのは、この人口ビジョンは、総合計画の数値をベースに使っています。総合計画では、2032年に人口3万人と目標設定していますので、それを基にこの数値を出しています。現実には、この数字より下に出っていますが、定住政策など色々な取組を進めていくという考えであります。以上です。

【会長】

他はいいですね。

【委員D】

簡単な質問が一つと、それから一つ提案ですが、新規雇用創出数がありますが、

これは何をもって、新規雇用創出と捉えているのかということが一つです。それから、山口県というのは全国で見てもイメージが薄い県だと思います。その中で、この圏域を何かひとことでイメージできるような、そういう名前はないのかと。そういうものを作ることによって、発信できるのではないかと感じます。以上です。

【会長】

今、質問いただいた新規雇用の件、事務局で答えられますか。

【事務局】

新規雇用数については、企業誘致をはじめ、様々な支援をさせていただくようなところのものを考えており、当然減る部分もあるとは思いますが、プラスの部分だけをこの指標では考えております。

【委員E】

先ほど、山口市長の挨拶の中で、7市町という挨拶がありました。まさに先ほどC委員が言われたとおり、7つのまちが集まっているのに、ななし。名が無いという形に聞こえてしまいました。せっかく7つが集まってやるのであれば、向かっていく目標を名前に掲げるような形で、ぜひネーミングを考えていただいたらどうでしょうか。ななしでは、ちょっと寂しいような気がします。

それと、二次交通のことが結構書いてありますが、実際に山口宇部空港、あるいは新山口駅を中心に、というところまでは分かりますが、そこから各中心の都市をどう結んでいくのか。例えばタクシーを使ってもバスを使っても、お金がとにかくかかる。観光で来られる方が、次に移動するときに何でこんなにお金を使わないといけないのか、と思うような発想にならないように。それと、せめて15分に1本程度、公共交通機関が動いていて、そんなに待たなくて済むというところは、早急に取り組んでいかないと、広域で一所懸命連携しましょうと言いながら、観光バスを回すだけで終わってしまって、増えるということにはならないと思います。防府は、いま中心市街地を何とかしようということで、街中で、例えば電気自動車でも誰もドライバーがいなくても街中を巡回していくような新しいシステムを考えてみたいと思っています。それはマツダさんとかと連携しながら一緒に考えるということで、新たな域内の交通、あと広域を結ぶ相互交流といいですか、その辺もぜひこの中に考えていただいた上で、先ほどの津和野町のようなルートで風情を求めて旅を楽しむとか、そういった事もプラスαになれば、観光客、交流客は増やせるのではないかと思います。以上です。

【会長】

マツダさんの件、非常に興味がございます。この7市町で実現できると素晴らしいと思います。

【委員F】

先ほど、C委員から美祢市の人口が増えることを聞われましたが、私は本当にそうあって欲しいと思っています。しかし、山口県内で人口が増えること、増や

すことは並大抵のことではないと思います。観光にしても、山口県には岩国、防府、山口、津和野、萩などがある中で、美祢市の秋吉台の観光等を含めても非常に観光に来られるお客さんが少ないです。色んな手を使って美祢もやっています。しかしながら、軌道に乗らないというのが現状です。県としても、何とか観光にもっともっと力を入れて、やっていただきたいと思っております。

また、山口市長のご挨拶でありましたように、山口県は、140万の人口を割っております。隣の福岡市の人口が山口県の人口より多い。それはなぜかという、今から15年前、福岡市の隣の古賀市に視察に行きました。福岡市の働く場所が非常に多いということで、隣の古賀市の宅地造成が、造成中に全部売れてしまうというような時代でした。しかし、山口県はあちらこちらで宅地造成をしてもなかなか売れない。美祢も来福台で1000戸の宅地造成をやり、600くらい売れましたが、中々売れない。

やはり皆で力を合わせながら何とか人口を増やしていくには、山口県からいかに人を出さないかということが重要です。先ほど女性の出産のことも言われましたが、女性も結婚してくれない中、人口を増やそうにも増やしようがないと思います。皆で力を合わせて、圏域外に出さないようにして、そして出産もスムーズにいくようにして、どこの市町も人口を増やして、山口県の人口が、これから20年、30年先でも、100万を割るようなことは絶対しないようにみんなで頑張りましょう。

【委員G】

意見交換ということですが、皆さんの意見を聞いて、じっくり自分なりに考えてみようかと思っておりますが、意見を事務局に提出できる機会がありますか。

【会長】

ございます。

【委員G】

分かりました。私は観光に携わっているということで、この圏域が、これまで一番連携を持ってやりたいと思いつつ、なかなか思うように事が進んでいないのは、やはり観光じゃないかと思っています。それはどういう意味かというと、観光の持つ力というか、観光は総合産業で、私は大きな位置づけをしています。そこには、結果的にお金をすごく生んで、地域の人が元気になるという流れにあるのではないかと思います。そういう部分で、観光等について意見を書かせていただきたいし、色んな機能強化の各戦略の案が出ておりますが、そういう部分の中にも、観光の取組をもう少し増やしていただければいいなと感じました。また具体的な意見は、書かせていただきたいと思います。

【委員H】

D委員が言いましたキャッチフレーズのヒントにもなるかと思いますが、平成30年、明治維新から150年という節目を迎えます。この節目は、私は山口県にとっては最大のPR、情報発信のチャンスではないかと考えております。今、県

を挙げて幕末 ISHIN 祭という形で盛り上げていきたいと思いますと言っておりますが、維新150年という話が出てこないというのは非常に残念でありますし、私どもの力不足ということをよく感じます。まさに最大の情報発信のチャンス、平成30年、維新150年じゃないか、この時に何か盛り上げようということです。それから、先ほど交流人口を増やしていきましょう、人口減少対策だ、その人口減少対策の具体策は、交流人口を増やしていったって、地域経済を盛り上げていきたいと思います。さらに、その具体策は、実はそれは観光であると、というようなシナリオになっています。交流人口を増やしていく、これは二井知事さん時代からの課題であります。それで最近では、こうした連携をとっていきましょうというのは、まさにDMOであります。多様な業種が一体となって、地域経済を盛り上げていきたいと思います。それにいま県の観光連盟がDMO候補法人になっています。もう一つは、山口県では萩の観光協会がDMO候補法人をもらっています。皆で地域づくりしましょうということです。

いま何がヒットしているか。ご承知の通り、元乃隅稻成神社、これはSNSの攪拌力の爆発的な強さを見せつけられていると思います。また、少し前になりますが、NHKの大河ドラマ花燃ゆ。あの時は、もう観光の数値が近年最高数値を記録しています。それともう一つは、MICEで、先日のプーチン大統領来県です。膨大な経済効果が出ています。そこで、こういった宇部小野田、山陽の方々も一緒に含めた広域連携の中で、MICEが良いのではないかと。要するにMICE、これは造語ですが、スポーツも含めて、学会とか、展示会とか、そういったものは山陽側の大企業の皆さんのところにはかなりあるのではないだろうか。ところが、そこには今までは観光は関わってない。先程申し上げたように、一緒になって皆で地域づくりしていきましょう、交流人口を増やしていきましょう、山陽側の皆さんと山陰側の私どもと、交流するところはその具体的な見える策ではないかなと思います。要は、外貨を稼いできて、地域内で取り合うのではなく、外貨を稼いできて、税金と給料で地域に資金供給する。これが観光協会の役割ではないかなと思います。その辺に当会の動くヒントがあるのではないかと、具体策があるのではないかと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございます。維新150年の件はちゃんと念頭にあります。

【委員I】

先ほどH委員がお話をされましたが、今までと同じようなスタイルでは、そのまま終わってしまうのではないかとということで、今から特に、体験というのが一つのキーワードになってくるのではないかと思います。そして、都会ではありえない時間を楽しむ、そういう空間づくりというのが大事になってくると思います。特に修学旅行生でも、以前のように史跡とかを見るのも大事ですが、それプラスαの色々な体験をするようなものを作っていけば良いのではないかと。例えば今でもありますが、萩焼プラス例えば「おしくらごう」ですかね。そういうの

も楽しんでもらう。そういう形でやっていけば、もっと裾野が広がってくると思います。

【委員H】

先ほど申し上げたように、維新150年。これは本当に最大のチャンスです。申し上げたいのは、いま知事さんが筆頭になって、幕末ISHIN祭で盛り上げていきたいと思います。と取り組んでいる中で、「祭」と書いてあります。維新150年の時、県サイドで何かするのか。これは置いて、いまこうやって各地域から来られています。各地域のリーダーの方ばかりでありますから、各地域で維新150年は、こういったことをやるよ。これを持ち寄って、全体をひっくるめて「祭」となればいいと思っています。ちなみに萩市は明倫学舎の整備ということで、段階的にやっていますが、これはそういったことで維新であれば萩は全面的に出ていきます。萩市としては、記念メモリアル事業をやります。こういう姿勢を見せているということではないかと思います。各地域の皆さんに、是非とも維新150年に向かって、各地域から色んなネタを出していただきたいというお願いでございます。以上です。

【委員J】

色んな意見を拝聴しております。私のほうから言いたいのは、例えば交通圏にしても、子どもの出産についても、担い手がない。担い手をどういう形で育てていくのかをしっかりと考えていただきたいと思います。根本的な形は担い手不足だと。子どもにしても、そういう担い手を育てなくてはいけない。交通網にしても運転手がない。そういう担い手をしっかりと支えていくような産業を作っていくなくてはいけないということを、ちょっと添えてお願いしたいと思います。

【会長】

K委員さんいかがですか。

【委員K】

各委員の皆さんから観光のことはご意見が出ておりますので、1点だけご提案があります。この圏域には素晴らしい観光施設が沢山ありますので、この情報をきちんと整理して、発信する体制、それをお客様目線で作っていただければいいかなと思います。これがないとやはり使えない情報発信になりかねないと思っています。これを英語化することで、インバウンド対策になると思いますし、また一番大切になりますが、これを毎回きちんとアップデートするというのが、本当に使える情報になるかどうかということになってくると思います。このことをお願いしておきたいと思います。以上です。

【会長】

L委員からいかがですか。

【委員L】

ビジョンなのでそこまで書く必要ないかもしれませんが、もう少しターゲットとするエリアを決めないと。交流人口はどこの地域の方の交流人口なのか、市民の

方にお示ししても分かりづらい。現状どこの地域の方が本圏域の中に来ているのかを踏まえた上で、ビジョン策定というか、これからの人口計画を作っていただきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございました。時間が短かったため、十分にご意見を賜うことができていないと思いますが、本日用意しています資料6 意見書を書いていただいて、事務局のほうへ提出をしていただけるようになっていきますので、まだまだ、今日の資料ももっと分析をしていただいて、色んなご意見を頂戴できればと思っています。本日、事務局より提案をさせていただきましたのが、交流人口をまず増大させるということで、観光に力を置いた計画を、ご提案をさせていただいております。先ほど皆さん方からご意見を頂戴した中では、特に反対はなかったように思いますが、ベースはこの形で進めさせていただいてよろしいですか。

【委員】

異議なし。

【会長】

ありがとうございます。交流人口のことですが、最近インバウンドのチャーター便とか、定期便が就航しております。これは全国的にどこもやっていることでございますので、特徴がまだまだ出ていないような感じもしております。インバウンドは確かに外貨を稼ぐ大きなものでございますので、こういうことにもっと力を入れていくようなこととか、隣の市と観光客を取り合うのではトータルのパイの食い合いだけにしかありませんので、やはり外貨を稼ぐという、そういうベースのところをきっちり押さえて、この域内全体の交流人口が増えて、その中でビジネスが生まれるような仕掛けをしっかりとしていく。その中で先ほど防府のほうでお話があったように、モバイル的なこととか、地域の企業が次のビジネスとして取り組めるようなことができないかとか、そういうことから新しいビジネスチャンスが生まれたりするのではないかと思います。一つの市ではなかなか難しかったことも、この7市町が協力しあえば、色んなアイデアが出てくるような感じがしています。新しい発想の下で、7市町の広域連携を実現できればと思っています。加えて言えば、先ほどH委員からお話いただいたように、明治維新150年もございますし、またその後の東京五輪というのがその2年後に控えていまして、萩市さんも萩、山口、防府で日本遺産のほうも動いておられます。津和野町は日本遺産をとっておられます。日本遺産に登録されることが、東京五輪のときの政府のインバウンドのお客様を集中的にそこに送り込んだりするような話も聞いておりますので、そういう特徴ある動きをしていくことも非常に大事と思っています。

また、観光面でももう少し言いますと、医療の件も、宇部の方ともっと広めていくことができれば医療ツーリズム、この言葉がいいかどうか分かりませんが、医療で海外からお客さんを呼び込むということも一つ視野に入るとか、色々特徴ある

	切り口を作ることによって、この7市町の特徴がしっかり出せていけるのではないかと考えています。 11月に山口大学と地方創生のカンファレンスを開きました。山口大学では、国際総合科学部という新しい学部ができておりまして、ここは留学生が7～80人来ております。また同じ数の日本人の学生が1年間海外に留学をするという仕掛けになっていて、1年生の日本人もいま英語がペラペラになっています。海外から来られている留学生も、色んな国から来られていて、日本語がかなり堪能になっておられます。日本人も留学生もこういう方々は、日本で就職したい、あるいは山口県で就職したいという希望を持っておられる方が非常に多いのにびっくりしました。先ほどのインバウンドを含めた観光を進めていくと、必ず言葉の問題が出てきます。そこでこういう学生が地元で就職できれば、かなりの面で語学の壁というのが乗り越えられるようにも、その時に感じた次第でございます。医療の面においても、語学が壁と聞いております。この語学というものに堪能な学生が、山口にいますから、もっと活用すればいいのかと思います。そういうことも含め、色々と詰めていけば、ちょっと明かりが見えると思っています。 今からの予定の中で、来年の1月に第2回目のこの会議を開かせていただきますが、それまでに色んなご意見を賜りまして、またある程度その間で皆さん方に返せるものがあれば返させていただいて、第2回目の会議でいったん終わりということになります。時間もございませんが、その途中の段階も含めて色々と協議をさせていただければと思います。これで終わりたいと思います。進进行を事務局へお返しします。 8 今後の日程 第2回 平成29年1月24日 14時～ ホテルかめ福 9 閉会
会議資料	・ 次第、委員名簿、関係者名簿、座席表 ・ 資料1 山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会規約 ・ 資料2 連携中枢都市圏構想について ・ 資料3 連携中枢都市圏の推進体制 ・ 資料4 山口県央連携都市圏域ビジョン（素案） ・ 資料5 ビジョン策定に向けたスケジュール（案） ・ 資料6 山口県央連携都市圏域ビジョン懇談会 意見書
問い合わせ先	総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747